

令和4年度第1回庄原市情報教育研修会

- 日時：令和4年5月25日（水） 14：00～16：35
- 場所：各学校 オンライン
- 対象者：庄原市内各小・中学校のICT活用推進リーダー22名

目的

- ・ICT活用に係る市の実態と今後の予定について理解する。
- ・本市に導入しているアプリ等を実際に活用することを通して、各機能についての理解を図るとともに、活用場面や授業づくりのヒントとする。

講話 「ICT活用に係る市の実態及び今後の予定について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 砂走 敏和

1. 本市のICTに係る調査結果

B	授業中にICTを活用して指導する能力	小学校	中学校
B-1	児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	89.4%	89.7%
B-2	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	68.3%	67.8%
B-3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。	77.2%	42.5%
B-4	グループで話し合ったり考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	60.2%	58.6%

令和3年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より

【講話の概要】

- 本市における「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、単元や授業の導入等で資料を「提示」する場面での活用は高まっている。一方、作品などを「共有」「比較検討」、学習の習熟をねらった「繰り返し学習」する場面、グループでの「まとめ」や、「協働」する場面での活用については課題がある。
- タブレット端末を用いた実践事例を集め、ICTBookを作成する。
- タブレット端末の持ち帰りについて、日常的な持ち帰りへと利活用の拡大をしていく。

講話・演習 「まなびポケットの機能について」

NTTマーケティング株式会社 鈴鹿 雅恵
NTTコミュニケーションズ株式会社 浅見 和弥

講話・演習

「eライブラリアドバンスの効果的な活用について」ライズ株式会社 塚本 智士

はじめに

まなびポケット、MEXCBTの特徴と違い

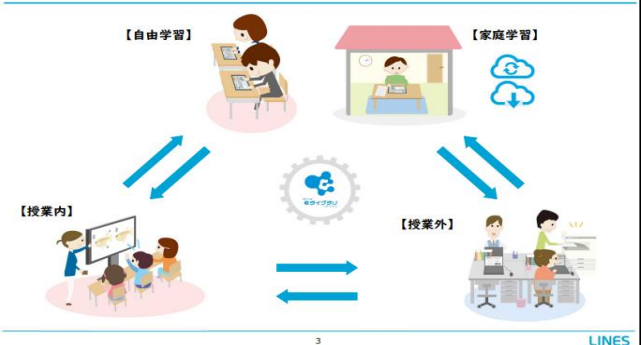
まなびポケット

- ① 多種多様な学習教材とSSO連携で簡単ログイン
- ② 教職員—児童生徒—保護者間のコミュニケーションツール
- ③ 学習ログで活用状況の可視化が可能

MEXCBT

- ① 文部科学省が開発
- ② 国や自治体の公的機関が作成した問題を簡単に活用
- ③ 児童生徒の問題の演習・理解度測定に使える
- ④ 解答したテストの結果をもとに、児童生徒が振り返り学習が可能

利用場面



【講話・演習の概要】

- まなびポケットは、学習教材の入り口である。
- Google Classroomのストリーム機能と、まなびポケットのチャンネル機能について差違点を示す。
- 保護者と児童生徒との紐づけが可能であり、双方向の保護者連絡が可能である。

【講話・演習の概要】

- 自分で教材を選択し問題に取り組むだけではなく、児童生徒の学習課題を分析し、個に応じた課題を出題することができる。
- 学習履歴の確認や意欲的に取り組むことのできるための「タイムマップ」「おすすめ」学習がある。

【参加者から】

- ・eライブラリのタイトル学習は、活動が早く終わった児童に取り組ませる。
- ・eライブラリやMEXCBTは各教科で取り入れていきたいので、研修により、多くの教職員が授業の中で活用できるようサポートしていく。また、学力の定着や学習方法を広げるきっかけづくりとする。
- ・ICTを活用することで、子供たちがより主体的な学びを実現しやすくなるよう、少しずつでも継続的に取り組んでいく。